

平成17年
水害レポート
2005



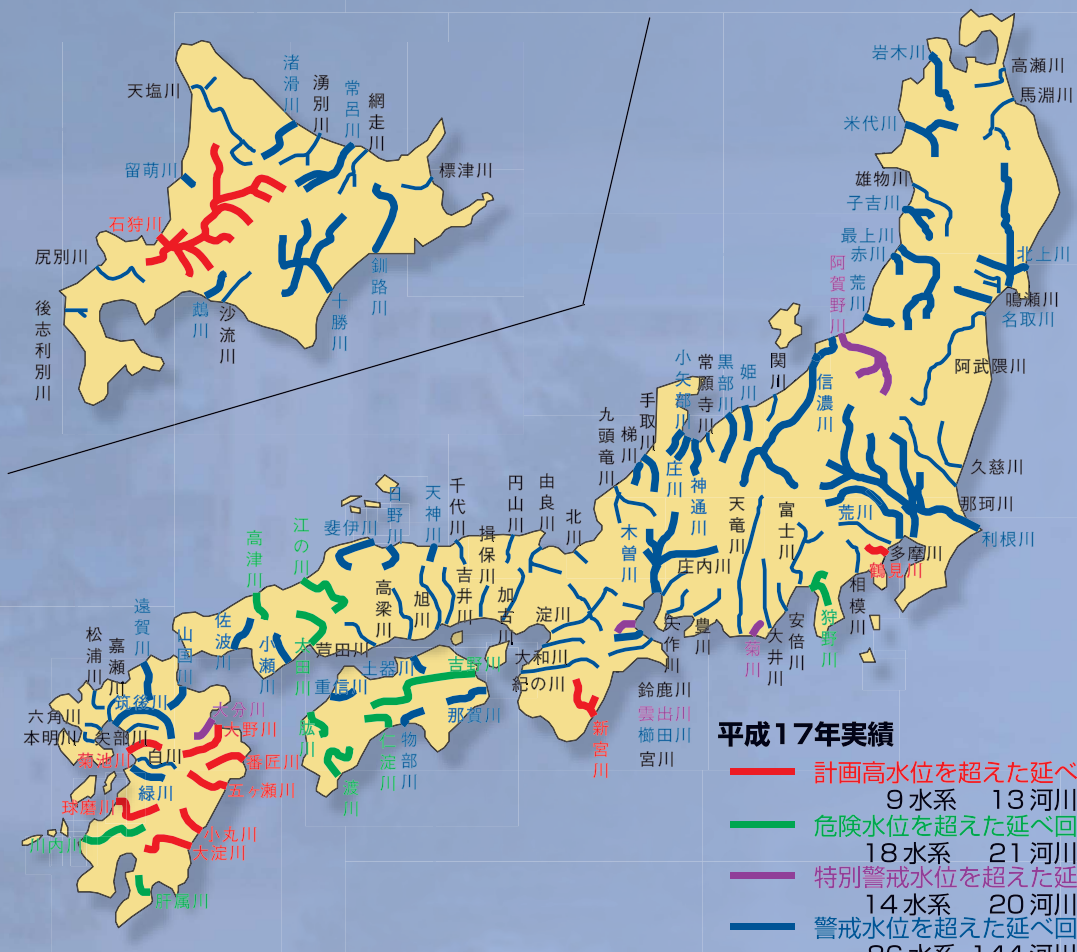
局地的豪雨の頻発と 大渇水の日本列島を襲った 台風14号による記録的豪雨

2005年の出水状況

平成17年は、前線性の局地的豪雨や台風により各地で大きな被害が発生しました。
とくに北陸地方を中心とした梅雨前線による局地的豪雨や関東地方を中心とした前線性の局地的豪雨、九州・四国・中国地方を中心とした台風14号による記録的な豪雨などにより甚大な浸水被害となりました。
また、四国地方を中心とする西日本では少雨が続き、大渇水となったため、各地で取水制限等が実施され、日常生活に影響が及びました。

全国の国管理河川で計画高水位や危険水位を突破

平成17年11月1日現在



平成17年実績

- 計画高水位を超えた延べ回数
9水系 13河川 (16水系 20河川)
- 危険水位を超えた延べ回数
18水系 21河川 (53水系 62河川)
- 特別警戒水位を超えた延べ回数
14水系 20河川 (今年度新たに設定)
- 警戒水位を超えた延べ回数
86水系 144河川 (228水系 387河川)

注) () 書きはH16年実績

平成17年の主な風水害・地震による一般被害状況

<主な風水害> 消防庁調べ 平成17年11月1日現在

災害要因	死者数 (人)	行方不明者 数(人)	住家被害(棟)					非住家被害(棟)	
			全壊	半壊	一部損壊	床上浸水	床下浸水	公共施設	その他
6月27日～29日/梅雨前線	1	0	0	0	4	175	559	3	794
7月1日～4日/梅雨前線	3	2	2	1	8	87	2,602	0	4
8月25日～26日/台風11号	0	0	0	1	24	15	74	1	18
9月4日～5日/前線	26	3	1,178	3,504	2,770	7,626	1,353	150	2,354
9月5日～8日/台風14号	30	5	1,180	3,506	2,806	7,903	4,588	154	3,170

◇住家被害計(棟)19,983 ◇床上床下計(棟)12,491

<主な地震>

災害要因	死者数 (人)	行方不明者 数(人)	住家被害(棟)					非住家被害(棟)	
			全壊	半壊	一部損壊	床上浸水	床下浸水	公共施設	その他
3月20日、22日	1	0	133	244	8,620	—	—	不明	不明
4月1日、7日、10日、20日									
5月2日/福岡県西方沖									
6月20日/新潟県中越地方	0	0	0	0	5	—	—	8	
7月23日/千葉県北西部	0	0	0	0	12	—	—	1	6
8月22日/宮城県沖	0	0	1	0	856	—	—		
	1	0	134	244	9,493	—	—	9	6

◇住家被害計(棟)9,871

<風水害・地震合計>

災害要因	死者数 (人)	行方不明者 数(人)	住家被害(棟)					非住家被害(棟)	
			全壊	半壊	一部損壊	床上浸水	床下浸水	公共施設	その他
風水害・地震	31	5	1,314	3,750	12,299	7,903	4,588	163	3,176

◇住家被害計(棟)29,854

CONTENTS

2005年の出水状況	1
河川・ダム事業の効果	5
治水事業の現状	7
各地の水害状況 北海道・東北地方	9
関東地方	10
北陸地方	11
中部地方	14
近畿地方	15
中国地方	17
四国地方	19
九州地方	21
沖縄地方	24
世界の主な風水害・地震	25

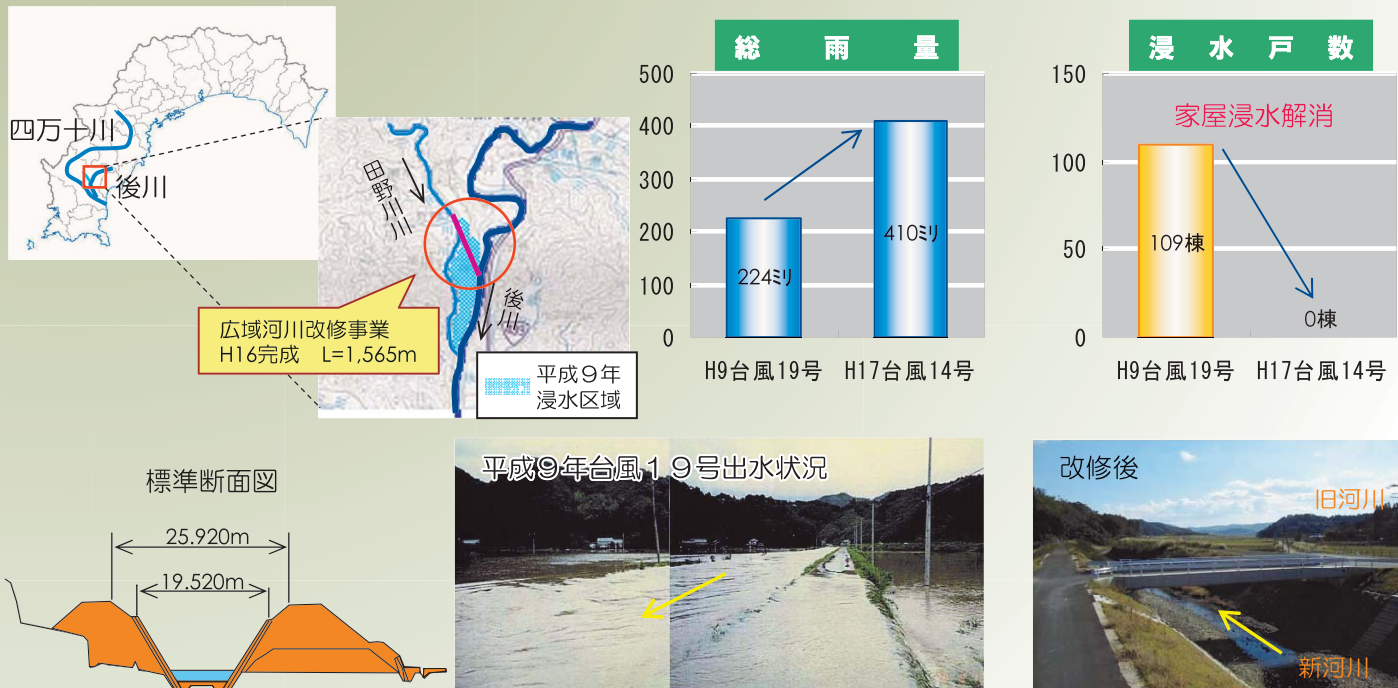
集中豪雨や台風により
浸水被害が各地で発生した2005年



河川改修により各地で浸水被害を軽減

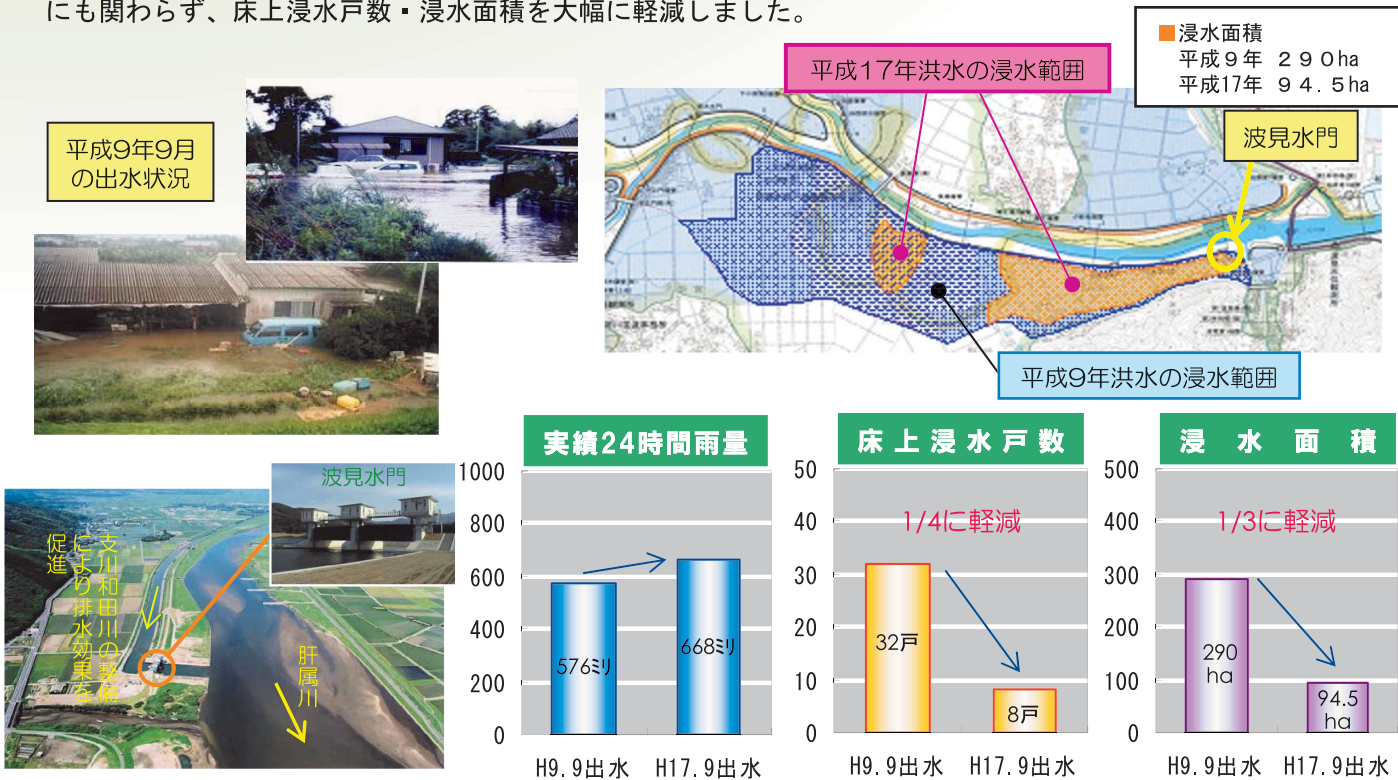
◆ 広域河川改修事業により家屋浸水解消【渡川水系田野川】

高知県四万十市を流れる渡川水系田野川は、平成9年台風19号による出水で田野川地区109戸が浸水する大規模な浸水被害が発生しましたが、広域河川改修事業によりショートカットが平成16年に完成したため、平成9年9月出水を上回る降雨となった平成17年台風14号では家屋浸水はゼロとなりました。



◆ 波見水門の整備による浸水被害の軽減【肝属川水系肝属川】

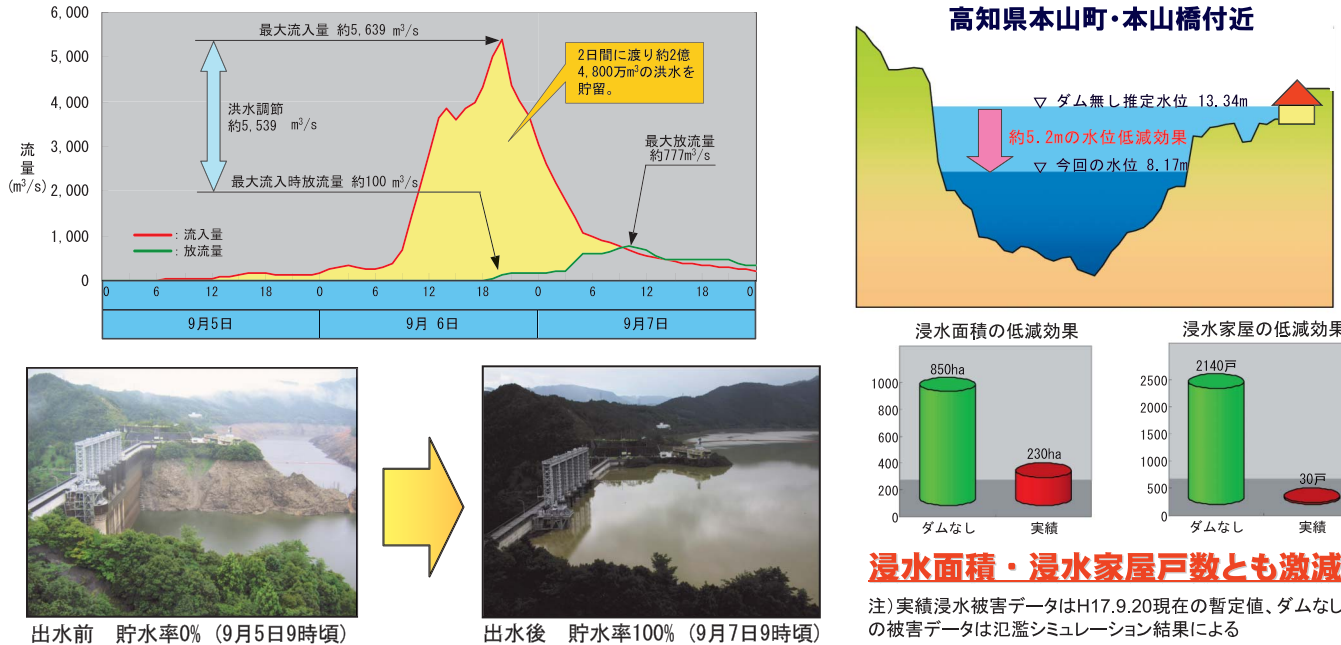
平成9年、11年の洪水で大きな被災を受けた波見地区では、平成13年から実施した「床上浸水対策特別緊急事業」により、平成15年度に波見水門が完成しました。台風14号では平成9年を上回る大雨であったにもかかわらず、床上浸水戸数・浸水面積を大幅に軽減しました。



早明浦ダムにより下流河川の水位を大幅に低減

◆ 早明浦ダムにより下流の浸水被害の軽減【吉野川早明浦ダム】

台風14号により、早明浦ダムでは管理開始以来2番目の記録となる最大5,640m³/sの流入量（計画高水流量4,700m³/s）を記録しました。濁水により空っぽだった貯水池において、この洪水で利水及び治水容量の約94%にあたる約2億4800万m³をダムに貯め込み、下流の被害軽減に大きな効果を発揮しました。



分かりやすい情報提供により被害軽減

◆ 洪水ハザードマップ

洪水ハザードマップとは？

河川管理者が作成する浸水想定区域図を基にして、浸水想定区域や洪水予報等の伝達方法、避難場所その他洪水時の円滑かつ迅速な避難の確保を図るための必要な事項などを住民に分かりやすく示し、災害時における住民の迅速かつ円滑な避難行動や防災意識の高揚に役立てるマップ

※平成17年に改正された水防法では、浸水想定区域を含む市町村の長は洪水ハザードマップを作成し、各世帯に提供することが義務付けられています。

ハザードマップの作成支援体制

- 浸水想定区域図、洪水ハザードマップの作成に係る各種手引きを作成
- 浸水想定区域等調査に係る予算補助
- 災害情報協議会を設置し、各自治体への実務を支援

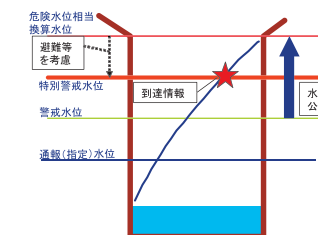
◆ 特別警戒水位

特別警戒水位とは？

水位情報周知河川*において、市区町村長が避難勧告等を発令する判断の目安の一つとなる水位

※水位情報周知河川
洪水予報河川以外の河川のうち、洪水により重大又は相当な損害を生ずるおそれがあるものとして指定した河川

イメージ図

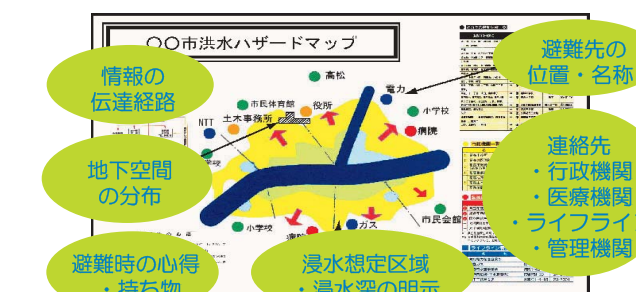


特別警戒水位の設定状況

特別警戒水位設定水系・河川数	特別警戒水位設定水系・河川数
国管理河川	50水系121河川
都道府県管理河川	390水系817河川

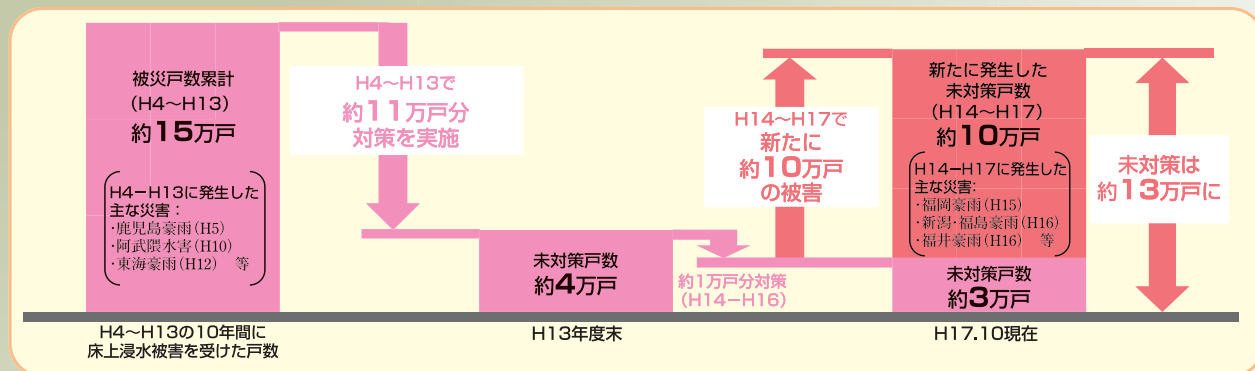
(平成17年11月1日現在)

● 全国の公表状況 434市町村 (平成17年9月30日現在)



後追的対応が続く治水対策

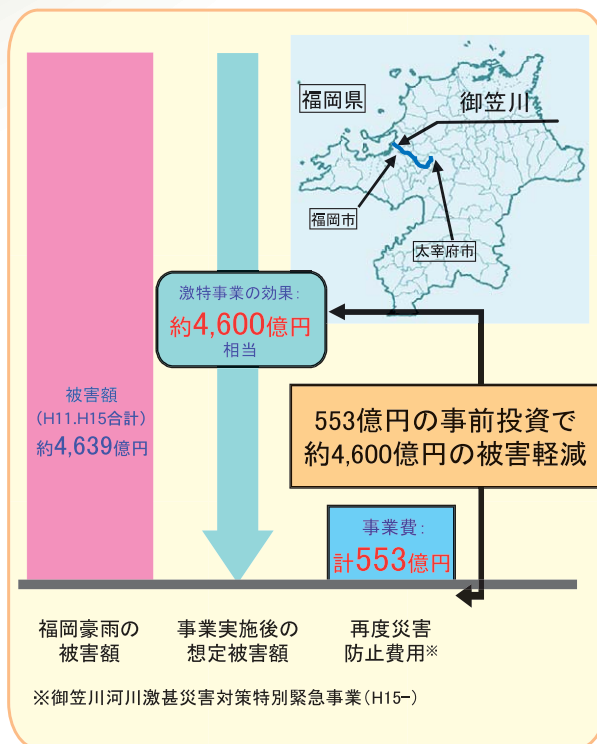
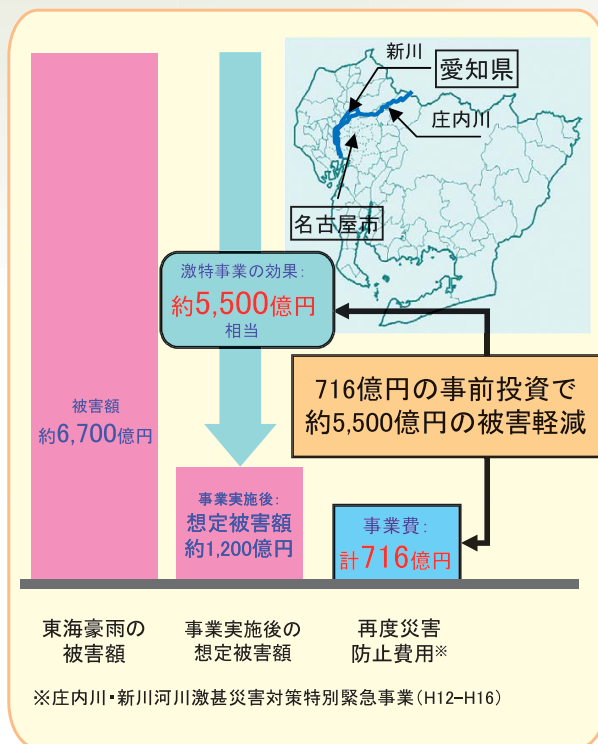
- 治水対策により、H13末までの10年間で約11万戸相当の対策を実施。
- 一方で、H14～H17の4年間だけでも新たに約10万戸の床上浸水被害が発生。
- 床上浸水被害の未対策戸数の現状



※床上浸水戸数は水害統計 (H17年度は消防庁発表に基づく10月17日現在の値)、未対策戸数は河川局調査による。
 ※床上浸水被害には全半壊・流失も含む。
 ※浸水被害にはこの他にも床下浸水、農地浸水等が存在。

事前投資で大幅な被害軽減が可能となる

- ①東海豪雨 (H12.9) 【愛知県庄内川・新川】
 ○東海豪雨により、浸水家屋約18,000戸、総額約6,700億円の被害が発生
 ○約700億円余りを投じて緊急的な対策を実施 (平成16年度事業完了)
 ○事前の投資がなされていれば約5,500億円相当の被害軽減の可能性
- ②福岡豪雨 (H15.7) 【福岡県御笠川】
 ○福岡市はH11.6及びH15.7に計2回、のべ浸水戸数約6,700戸の被害が発生
 ○約550億円で緊急的な対策を実施中
 ○事前の投資がなされていれば約4,640億円の被害が軽減できた可能性



※同様の降雨による内水又は越水による被害を計上。また、一部区間でHWLを超える場合があるが、破壊は想定していない。

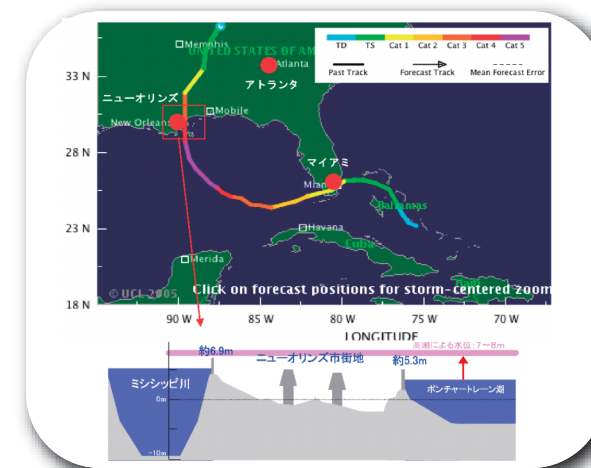
異常気象の長期的な変化傾向

- 日本の異常多雨・少雨の長期変化傾向的な変化傾向
 日降水量が100mmや200mm以上の大雨の出現数は、特に夏や秋を中心として長期的な増加傾向がみられるが、月降水量では異常少雨の出現数に長期的な増加傾向
 - 世界的な異常多雨・少雨の長期変化傾向
 多くの地域で異常多雨の出現数が増加し、異常少雨の出現数が減少する傾向
- <異常気象レポート2005 (気象庁) より>

米国のハリケーン・カトリーナによる被害状況

被害の概要 (ニューオーリンズ市)

死者数 : 1,204人 (10月3日現在)
 浸水面積 : 市の陸域の80%
 浸水戸数 : 16万人
 総被害額 : 2,000億ドル (約22兆円)
 復旧費用 : 623億ドル (6兆8500億円)
 復旧体制 : 5万人以上の陸・空軍兵士を派遣



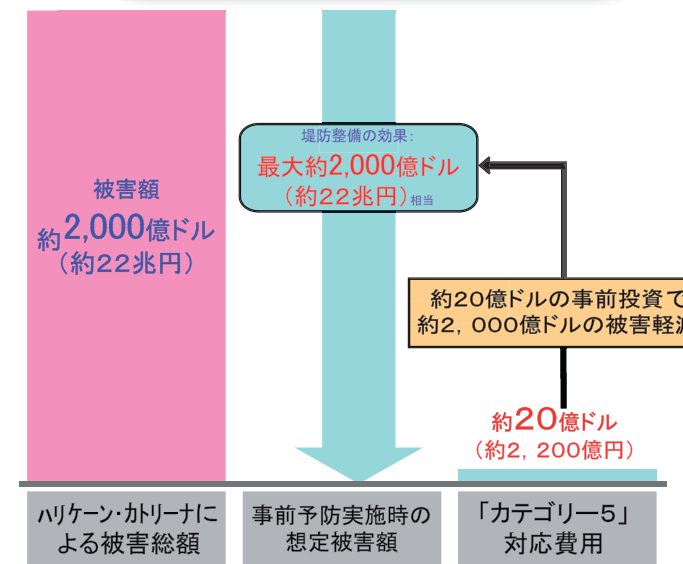
事業計画 (カテゴリー3対応の堤防整備)

完成予定: 2015年
 全体事業費: 7.38億ドル
 2004年度予算配分額 0.04億ドル
 2005年度 " 0.05億ドル
 2006年度大統領予算教書の額 0.03億ドル
 進捗状況: Jefferson郡 約70%、Orleans郡 約90%

事業試算 (カテゴリー5対応の堤防整備)

費用: 20億ドル (約2,200億円)¹⁾

1)陸軍工兵隊機関誌"River Side" September-October 2004



北海道地方

北海道

8月29日/低気圧

北海道では、オホーツク海の低気圧から南西にのびる気圧の谷の通過に伴い、大気の状態が不安定となって29日明け方頃に渡島半島の一部で積乱雲が発達し、激しい雷を伴う大雨となった。

松前町では6時までの1時間に43.5ミリの猛烈な雨を観測し、5時20分～6時10分までの1時間に観測された降水量44.0ミリは1977（昭和52）年の観測開始以来第1位の記録となった。このため大松前川が氾らんし、浸水被害が発生した。この雨による北海道の一般被害は住家一部損壊1棟、床上浸水4棟、床下浸水26棟（北海道調べ11月1日現在）となった。

▼ 大松前川の被災状況（松前町）



▲ 大松前川の氾らんにより浸水したグラウンド（松前町）



▲ 大松前川の被災状況（松前町）

8月25日～26日/台風11号

台風11号は、26日4時30分ごろ千葉市付近に上陸した後、茨城県南部を通過して海上に抜けて三陸沖を北東に進んだ。台風の北側には前線があり、台風の北上にあわせて北へ移動した。台風や前線がゆっくりと北上したため降雨継続時間が長くなり、宮城県を中心に強い雨が断続的に降り、宮城県管理の阿武隈川水系白石川、森の川、天津沢川などで浸水被害が発生した。この台風による宮城県、福島県の一般被害は住家一部損壊1棟、床上浸水1棟、床下浸水15棟（消防庁調べ8月26日現在）となった。

▼ 阿武隈川支川平家川の浸水状況（左：宮城県蔵王町、宮城県白石市）▼



関東地方

8月25日～26日/台風11号

台風11号の北上に伴い、台風の北側にある前線がゆっくりと北上したため断続的に雨が降り、その後台風が接近した25日昼過ぎから26日明け方にかけて東海地方から関東地方の山沿いを中心に多いところで最大1時間降水量が70ミリを超え、降り始めからの総降雨量は関東・東海地方の山沿いで500ミリを超える大雨となった。この雨により千葉県管理の加茂川などが氾らんし、浸水被害が発生した。この台風による関東地方の一般被害は負傷者2名、住家一部損壊21棟、床上浸水11棟、床下浸水50棟（消防庁調べ8月26日現在）となった。



▲ 加茂川の浸水状況（千葉県鴨川市）

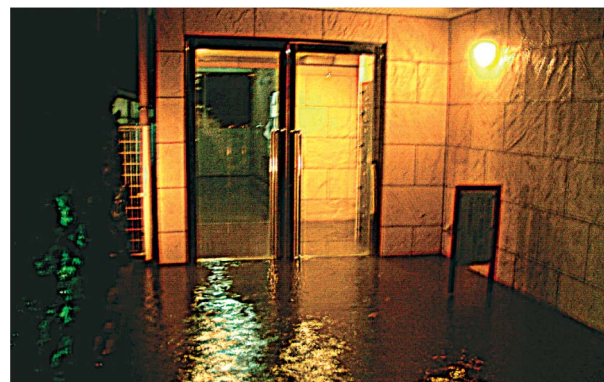


▲ 平久里川の浸水状況（千葉県館山市）

9月4日～5日/前線

9月4日夕方から5日未明にかけて、台風周辺から秋雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、東京都、埼玉県、神奈川県を中心に大雨となり、特に東京都、埼玉県では局地的に多いところで1時間に100ミリを超える猛烈な雨となった。この豪雨により東京都管理の荒川水系妙正寺川、善福寺川などが氾らんし浸水被害が発生した。この豪雨と台風14号による関東地方での一般被害は負傷者13名、住家一部損壊3棟、床上浸水3,107棟、床下浸水3,284棟（消防庁調べ10月6日現在）となった。

▼ 妙正寺川の被災状況（中野区）



▲ 善福寺川の越水等に伴うビルの地下への浸水状況（杉並区）

東北地方

宮城県
福島県

台風11号

北陸地方

6月27~29日 / 梅雨前線

6月27日から7月4日にかけて朝鮮半島から本州付近に延びた梅雨前線の活動が活発となり、九州北部から東北地方の広い範囲で大雨となった。北陸地方では6月27日から29日にかけて活発な梅雨前線の影響で新潟県を中心に日雨量300ミリを超える大雨となり、新潟県管理の鯖石川と鶴川では計画高水位を超えるなど大きな出水となり、内水氾らんなどにより浸水被害が発生した。この豪雨による北陸地方の一般被害は死者1名、負傷者7名、住家一部損壊3棟、床上浸水175棟、床下浸水558棟（消防庁調べ：7月5日現在）となった。



▲ 鶴川の浸水状況（新潟県柏崎市）



▲ 鯖石川の出水状況（新潟県柏崎市）

8月10~16日 / 前線

日本海から北陸地方北部にのびる前線と寒気の影響で、8月10日から16日にかけて各地で局地的な豪雨となった。8月10日には新潟県内の6観測所（気象庁アメダス）で既往最大日雨量を記録するなど激しい雨となり、降り始めからの総雨量は新潟県北部では500ミリを超える大雨となった。これにより新潟県管理の能代川などでは破堤等による浸水被害が発生した。

この豪雨による新潟県内の一般被害は死者1名、負傷者4名、住家全壊1棟、一部損壊26棟、床上浸水45棟、床下浸水1,096棟（新潟県防災局調べ9月7日現在）となった。



▲ 能代川の破堤状況（新潟県村松町）

平成16年に発生した災害への対応状況

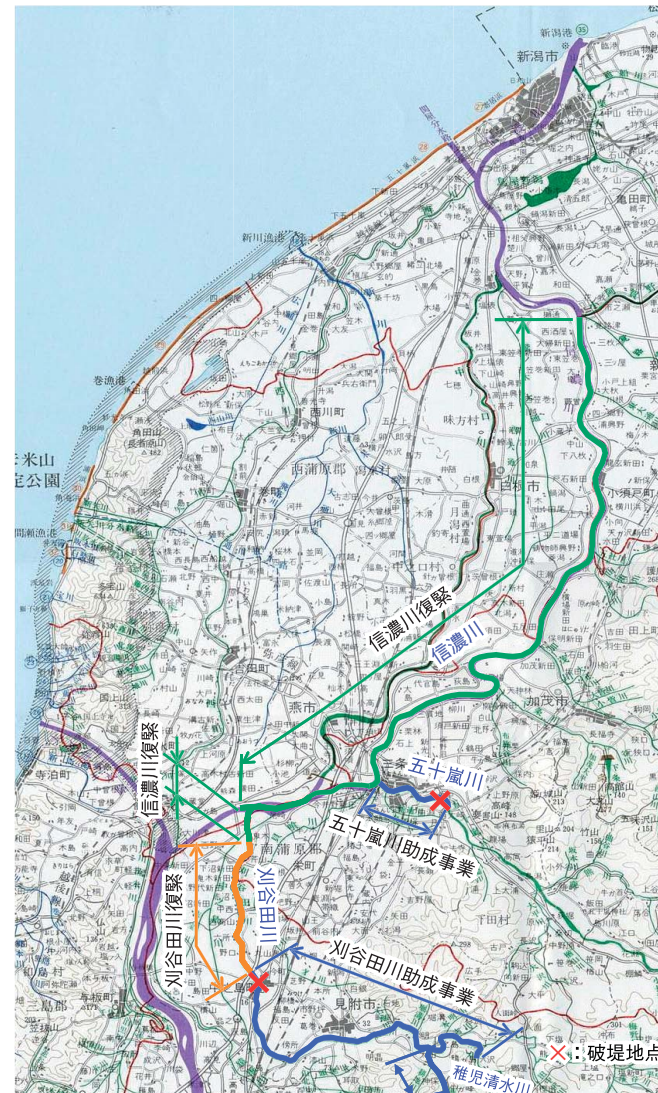
■ 平成16年7月新潟・福島豪雨

平成16年7月12日から13日にかけて、梅雨前線の停滞により記録的な集中豪雨で五十嵐川や刈谷田川等では破堤などの重大な被害が発生しました。そのため、新潟県では再度災害の防止を図るため、早急に7.13水害規模の洪水を安全に流下できるよう河川改修を行っています。

● 五十嵐川（左：三条市）と刈谷田川（右：見附市）の被災状況



● 助成事業・復緊事業位置図



● 五十嵐川災害復旧助成事業（助成事業）

- ・河積の拡大
洪水の流下する断面を確保するため、築堤、河道拡幅、河床掘削、橋梁の架替えを行ないます。
- ・流路の是正
下流の河道蛇行区間において、洪水がスムーズに流下できるように屈曲部の解消を図ります。
- ・河岸浸食の防止
河岸浸食から堤防を保護するため、護岸を設置します。
- ・堤防強化対策
漏水のおそれがある箇所には漏水対策等を実施します。



五十嵐川の河道改修状況

● 刈谷田川災害復旧助成事業（助成事業）

- ・高水敷掘削
高水敷掘削による河道内整備により計画高水流量を計画高水位以下で安全に流下させます。
- ・流路の是正
河道屈曲部（旧中之島町）は流路を是正（ショートカット）し、洪水を安全に流下させます。
- ・遊水地の整備
見附市上流域に遊水地を設置し、河道への負担を軽減します。



ショートカット部(航空写真)

● 刈谷田川河川災害復旧等関連緊急事業（復緊事業）

- ・高水敷掘削
計画河床勾配の見直しと高水敷掘削などによる河道内整備により、計画高水流量を計画高水位以下で安全に流下させます。



高水敷掘削状況

● 信濃川河川災害復旧等関連緊急事業（復緊事業）

- 激甚な災害が発生した刈谷田川・五十嵐川での災害復旧や改良復旧等による流量増のため、影響が及ぶ信濃川の下流の国管理区間において緊急的かつ集中的に治水対策を実施します。
- ・築堤
支川の助成事業等による流量増に対応する築堤を実施します。
- ・付帯工事
橋梁取付及び排水施設等の付帯工事を実施します。

平成16年に発生した災害への対応状況

■ 平成16年10月新潟県中越地震

平成16年10月23日17時56分、新潟県中越地方を中心とするマグニチュード6.8、最大震度7というきわめて強い地震が発生しました。またこの地震の余震と見られる震度5以上の大きな地震も度々発生しました。この地震により信濃川などでは堤防亀裂、のり面崩壊・沈下、堰・水門施設の損傷などの被害が確認されました。現在、被害の大きかった箇所において、従前の治水機能確保するための本復旧を実施中です。

● 地震発生直後（平成16年10月）



① 堤防裏法崩壊（長岡市（旧越路町）三俵野）
信濃川右岸三俵野地先で約150mに渡る裏法崩壊が発生



② 堤防亀裂（長岡市（旧中之島町）中条）
信濃川右岸中条地先で約1500mに渡り堤防天端に多数の縦断亀裂が発生

● 応急復旧状況（平成16年10月）

応急対策が必要な箇所については、平成17年の出水期までに応急対策を完了済み



① 応急復旧後（長岡市（旧越路町）三俵野）



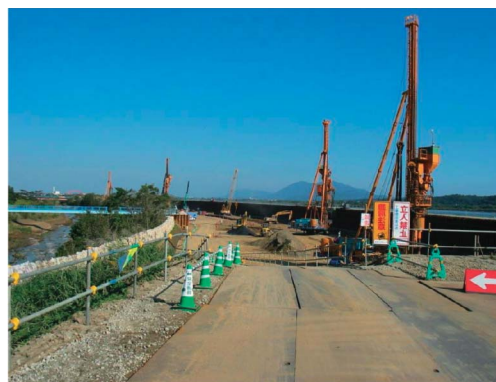
② 応急復旧後（長岡市（旧中之島町）中条）

● 本復旧状況（平成17年10月）

被災箇所前面に二重締切を設置し、旧堤防の撤去及び基礎地盤の改良を実施。現在本復旧作業を継続中



① 本復旧中（長岡市（旧越路町）三俵野）



② 本復旧中（長岡市（旧中之島町）中条）

中部
地方



8月25日~26日/台風11号

台風11号の北上に伴い、台風の北側にある前線がゆっくりと北上したため断続的に雨が降り、その後台風が接近した25日昼過ぎから26日明け方にかけて東海地方から関東地方の山沿いを中心に多いところで最大1時間降水量が70ミリを超え、降り始めからの総降雨量は伊豆地方の山沿いで500ミリにせまる大雨となった。この雨により狩野川では危険水位を超える出水となり内水氾らんなどにより浸水被害が発生した。この台風による中部地方の一般被害は負傷者4名、住家半壊1棟、一部損壊2棟、床上浸水3棟、床下浸水9棟（消防庁調べ8月26日現在）となった。



▲ 狩野川の浸水状況（静岡県伊豆の国市）



▲ 狩野川の出水状況（静岡県沼津市）



▲ 狩野川の浸水状況（静岡県伊豆の国市）



▲ 狩野川支川来光川の被災状況（静岡県伊豆の国市）

近畿地方

9月5~7日/台風14号

近畿地方では台風14号の外側を取り巻く強い雨雲が長時間にわたり紀伊半島にかかっていたため、山間部で大雨となった。4日から7日までの累加雨量は500ミリにせまり、新宮川水系相野谷川では計画高水位を超える出水となった。



平常時



▲ 新宮川支川相野谷川の浸水状況（三重県紀宝町）

平成16年に発生した災害への対応状況

■ 平成16年7月福井豪雨

平成16年7月18日、福井県の嶺北部を中心に時間雨量80ミリを超える（美山町で88ミリを記録）猛烈な雨が降ったため、足羽川等で破堤や越水等が多数発生し、死者4人、行方不明者1人、被害1万4千世帯以上の重大な被害が発生しました。そのため、国土交通省と福井県では再度災害防止の観点から河川激甚災害対策特別緊急事業（激特事業）による河川改修を行っています。

● 足羽川左岸の状況（福井市内）



● 河川激甚災害対策特別緊急事業位置図



● 足羽川の治水対策

① 河道の掘削

河道の流下能力を向上させるために、全川にわたり河床の掘削します。



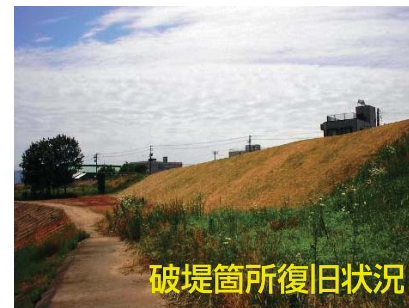
河床掘削状況

② 高水護岸

堤防を浸透や越流に対し強化し、破堤しにくい堤防にします。

③ 低水路の是正

低水路を是正し、堤防への水あたりの軽減を図ります。



破堤箇所復旧状況

④ 破堤箇所の復旧

破堤した箇所の堤防について、築堤を行います。

⑤ 橋梁等の改築と補強

橋梁改築、河道掘削に伴う橋梁補強・取水堰改築・取水施設（取水ポンプ）改築を行います。

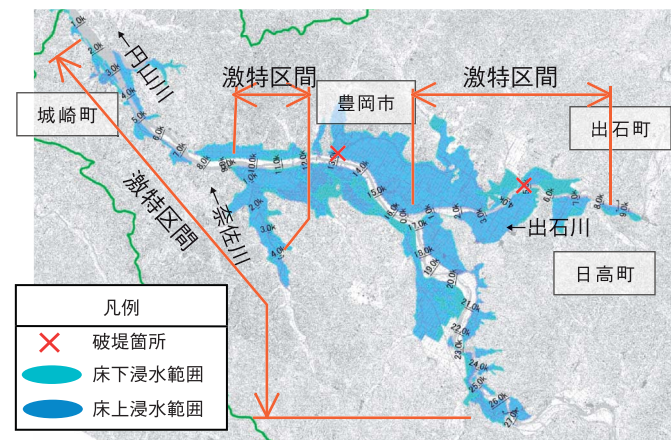
■ 平成16年10月台風23号【円山川・出石川】

平成16年10月20日、台風23号により円山川では観測開始以降、最高水位を記録し、円山川・出石川等の破堤や越水により豊岡市・城崎町・日高町出石町で甚大な被害が発生しました。そのため国土交通省では再度災害防止を図るため、緊急的な治水対策に着手し、直轄河川激甚災害対策特別緊急事業（激特事業）による河川改修を行っています。

● 円山川（左：豊岡市）と出石川（右：出石町）の被害状況



● 直轄河川激甚災害対策特別緊急事業位置図



● 円山川・出石川等の治水対策

① 河道掘削

河道掘削を行い、H16台風23号と同規模の洪水を計画高水位以下に水位を低減させ、治水安全度を向上させます。

② 築堤

築堤により、計画堤防高の確保や計画堤防断面幅の確保を行います。

③ 内水対策

甚大な被害をもたらした内水被害を軽減するため、排水機場の整備などにより内水対策を実施します。

④ 堤防強化

遮水シートの設置による浸透対策などにより堤防の質的確保を行い堤防強化を図ります。

⑤ 橋梁架替、堰の改修

洪水の流下を阻害する橋梁、堰の改築を行います。

⑥ 地域連携

- ・防災拠点
地域と連携し、水防資材の備蓄場所、非常時の避難場所、洪水情報の提供場所として水防活動及び緊急復旧活動の拠点を整備します。
- ・ハザードマップの作成支援
浸水想定区域図を活用し、自治体によるハザードマップの作成を支援します。



築堤状況

■ 平成16年10月台風23号【由良川】

台風23号により甚大な被害が発生したことから、由良川流域では、河川改修等のハード対策と併せ、ソフト対策として「由良川下流部緊急水防災対策協議会」を発足させました。これにより各機関との緊密な連携をより充実させ、地域住民と防災機関の連携、きめ細かな河川情報の提供等を実施しています。

河川情報の多重化による沿川住民への
確実な情報伝達

住民自らが災害時の危険度を感知し
自らの判断で避難回避行動を開始

● 由良川のソフト対策

① アラーム送信による危険情報（水位情報）提供

- ・電話自動応答装置整備（水位情報提供）
- ・登録者携帯電話への設定水位超過でのアラーム送信



② 水位と浸水想定高さの情報提供

- ・現況水位などホームページによる情報提供

③ 現地でのリアルタイム水位情報提供

- ・水標のライトアップや電光表示板による現地での水位情報の発信



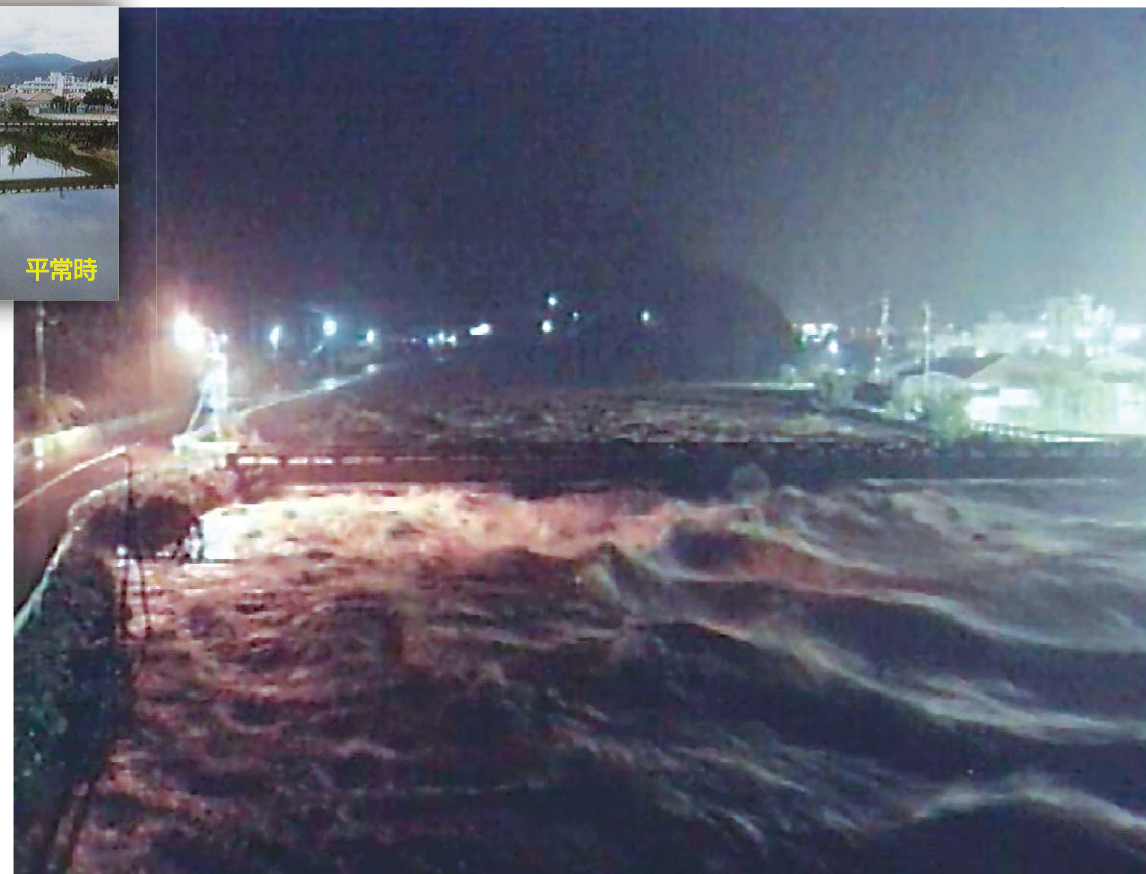
中国地方

7月2~4日/梅雨前線

6月27日から7月4日にかけて朝鮮半島から本州付近に延びた梅雨前線の活動が活発となり、九州北部から東北地方の広い範囲で大雨となった。中国地方では7月2日から4日にかけて、島根県、広島県、山口県を中心に日雨量300ミリを超える豪雨となった。このため山口県管理の土穂石川や島根県管理の佐々布川等では溢水や内水による浸水被害が発生した。この豪雨による中国地方の一般被害は死者1名、負傷者3名、住宅一部損壊7棟、床上浸水67棟、床下浸水1,809棟（消防庁調べ：7月5日現在）となった。



平常時



▲ 太田川の洪水状況（広島県安芸太田町）



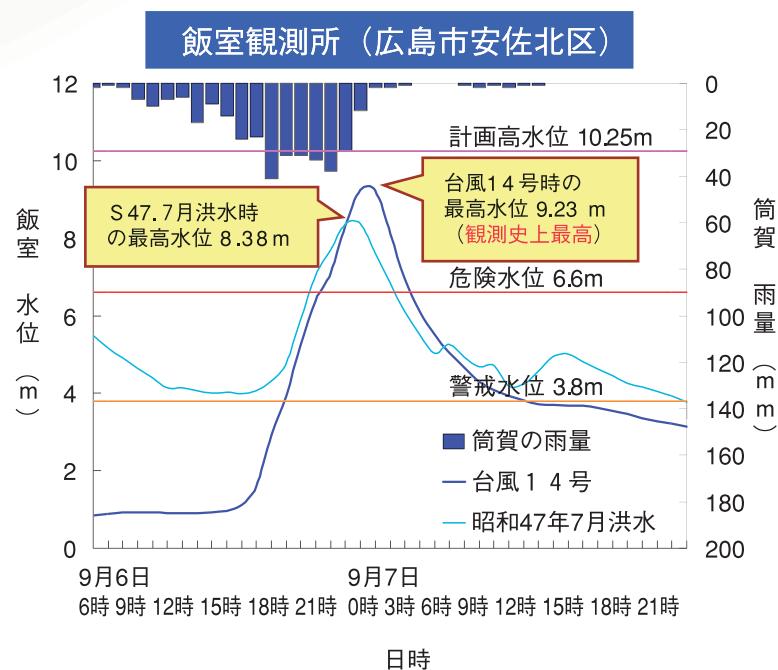
▲ 土穂石川の出水状況（山口県柳井市）



▲ 土穂石川の浸水状況（山口県柳井市）

9月5~6日/台風14号

台風14号は、大東島地方に接近してから山陰沖に抜けるまで広い暴風域を維持したまま、比較的ゆっくりとした速度で進んだため、長時間にわたって暴風、高波、大雨が続き、九州、中国、四国と北海道地方の61地点（気象庁アメダス）ではこれまでの日雨量の記録を更新した。この台風により、中国地方では太田川、高津川、江の川、錦川、島田川で危険水位を超える出水となり、浸水被害が発生した。中国地方での一般被害は死者4名、負傷者39名、住家全壊9棟、半壊146棟、一部損壊109棟、床上浸水1,678棟、床下浸水2,969棟（消防庁調べ10月6日現在）となった。



▲ 玖島川の被災状況（広島県廿日市市）



▲ 錦川の出水により橋杭が流出した錦帯橋（山口県岩国市）



▲ 錦川の浸水状況（山口県岩国市）



▲ 錦川の浸水後の状況（山口県美川町）

四国地方

台風14号

7月3~4日 / 梅雨前線

6月27日から7月4日にかけて朝鮮半島から本州付近に延びた梅雨前線の活動が活発となり、九州北部から東北地方の広い範囲で大雨となった。この豪雨により四国地方では7月3日から4日にかけて、愛媛県を中心に浸水被害が発生した。この豪雨による四国地方の一般被害は死者1名、行方不明者1名、住家全壊2棟、半壊1棟、一部損壊1棟、床上浸水20棟、床下浸水775棟（消防庁調べ：7月5日現在）となった。



▲ 肱川支川小田川・御碓川の出水状況（愛媛県内子町）



▲ 肱川支川小田川の出水状況（愛媛県内子町）



▲ 肱川の水防活動状況（愛媛県大洲市）



▲ 肱川の浸水状況（愛媛県大洲市）



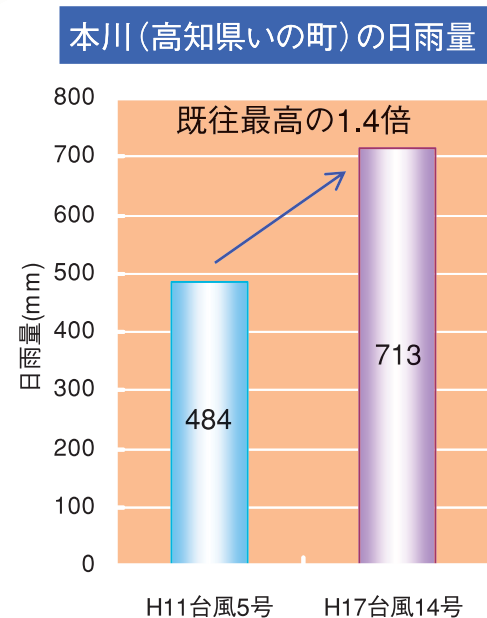
▲ 吉野川の浸水状況（徳島県美馬市）



▲ 波介川の浸水状況（高知県土佐市）

9月5~6日 / 台風14号

台風14号は、大東島地方に接近してから山陰沖に抜けるまで広い暴風域を維持したまま、比較的ゆっくりとした速度で進んだため、長時間にわたって暴風、高波、大雨が続き、九州、中国、四国と北海道地方の61地点（気象庁アメダス）ではこれまでの日雨量の記録を更新した。この台風により四国地方では4水系4河川で危険水位を超えるなど各地で大出水となり、浸水被害が発生した。四国地方での一般被害は死者4名、負傷者39名、住家全壊9棟、半壊146棟、一部損壊109棟、床上浸水1,678棟、床下浸水2,969棟（消防庁調べ10月6日現在）となった。



徳島県2地点、高知県7地点、愛媛県4地点で日降水量を更新（気象庁アメダス観測所）



▲ 山田川の浸水状況（高知県宿毛市）



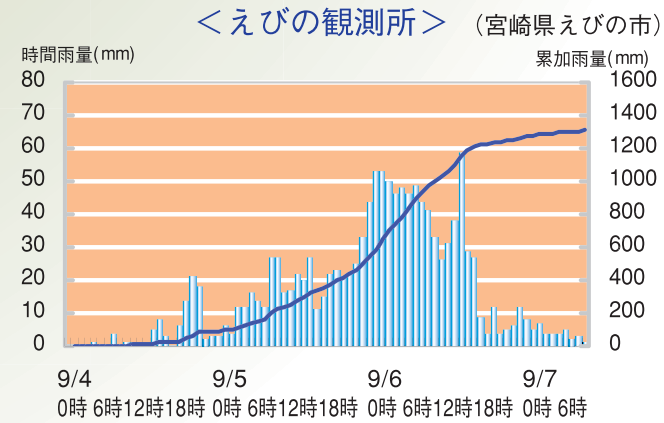
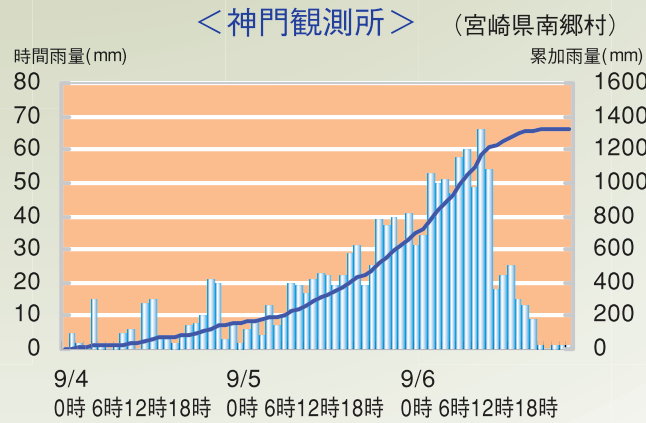
▲ 四万十川の浸水状況（高知県四万十市）

九州地方

9月4~6日/台風14号

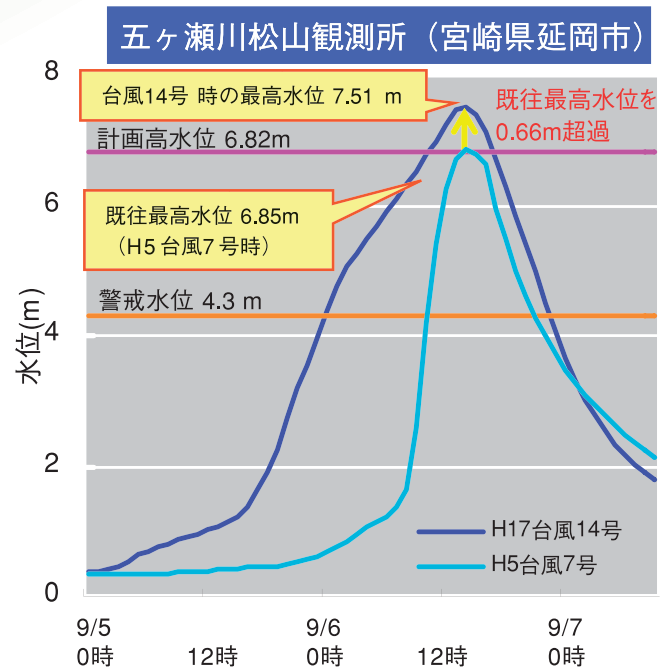
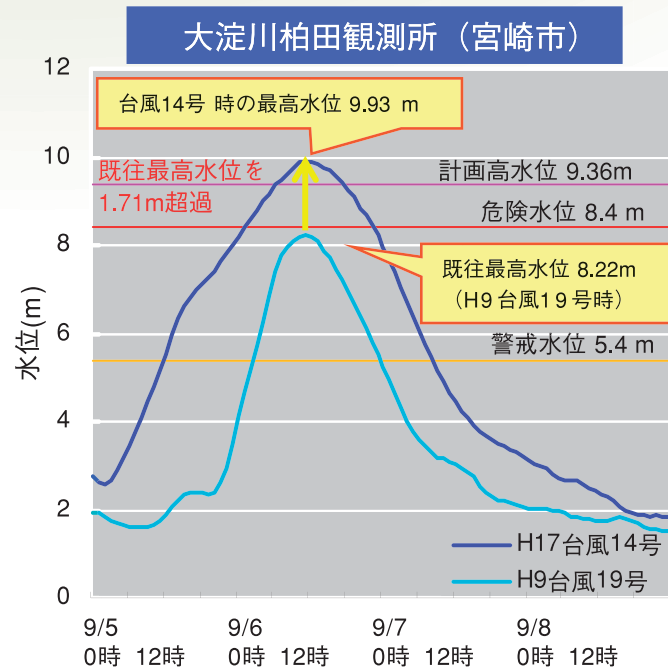
台風14号は、大東島地方に接近してから山陰沖に抜けるまで広い暴風域を維持したまま、比較的ゆっくりとした速度で進んだため、長時間にわたって暴風、高波、大雨が続き、九州、中国、四国と北海道地方の61地点（気象庁アメダス）ではこれまでの日雨量の記録を更新し、とくに宮崎県の間部では降り始めからの総雨量が多いところで1,300ミリを超える大雨となった。この台風により九州地方では5水系9河川で計画高水位を超え、7水系10河川で危険水位を超える出水となった。とくに五ヶ瀬川や大淀川では越水氾らんや内水氾らんで大規模な浸水被害が発生した。この台風による九州地方の一般被害は死者19名、行方不明者3名、負傷者85名、住家全壊869棟、半壊1,796棟、一部損壊2,546棟、床上浸水3,960棟、床下浸水5,085棟（消防庁調べ10月6日現在）となった。

30箇所で日雨量を更新し、総雨量1,000ミリを超える降雨※



6水系11河川で既往最高水位を超過

※ 気象庁アメダスデータ



▲ 五ヶ瀬川の越水状況（宮崎県延岡市）



▲ 同左



▲ 五ヶ瀬川の浸水状況（宮崎県北方町）



▲ 五ヶ瀬川支川祝子川の浸水状況（宮崎県延岡市）



▲ 五ヶ瀬川支川北川の浸水状況（宮崎県北川町）



▲ 耳川の出水状況（宮崎県日向市）



▲ 大野川支川乙津川の浸水状況（大分市）



▲ 番匠川の浸水状況（大分県佐伯市）



▲ 小丸川の浸水状況（宮崎県高鍋町）



▲ 大淀川支川大谷川の越水状況（宮崎市）



▲ 大淀川の水防活動状況（宮崎市）



▲ 同上



▲ 球磨川の出水状況（熊本県人吉市）



▲ 球磨川の出水状況（熊本県球磨村）



▲ 大淀川の浸水状況（宮崎市）



▲ 同左



▲ 球磨川支川小川付近浸水状況（熊本県球磨村）



▲ 大淀川の浸水状況（宮崎県高岡町）



▲ 肝属川の浸水状況（鹿児島県肝付町）



▲ 肝属川支川高山川の浸水状況（肝付町）



▲ 川内川の浸水状況（宮崎県えびの市）



▲ 川内川の浸水状況（鹿児島県さつま町）

6月13~18日/梅雨前線

6月13日から18日にかけて、沖縄本島付近では四国の南から八重山地方の北へ延びる梅雨前線が活発化し、各地で雷を伴う大雨となった。那覇では1時間最大降水量は74ミリを超え、13日から18日までの総雨量は651ミリまで達する大雨となった。このため比謝川、小波津川、天願川など6水系7河川で浸水被害が発生した。この豪雨による沖縄県の一般被害は床上浸水56件、床下浸水117件（沖縄県防災危機管理課調べ9月21日現在）となった。

▲ 比謝川の浸水状況（沖縄県沖縄市）▶

世界の主な風水害・地震

● 洪水被害
 ✕ 地震(津波)被害



▲ 浸水した道路標識の脇でボートを漕ぐ人 (アメリカ・ニューオーリンズ、ルイジアナ州)



▲ ハリケーンにより浸水したガソリン備蓄タンク (アメリカ・ニューオーリンズ、ルイジアナ州)



▲ ハリケーンの影響で電柱は倒れ、人々は通りに押し出された (アメリカ・Gretna、ルイジアナ州)

パキスタン (10月)

パキスタン・北インド国境付近で発生した非常に強い地震により、58,000人が死亡した。

インド (10月)

パキスタンで発生した強い地震により、カシミール地方で、1,309人が死亡した。

アフガニスタン (3月)

集中豪雨や雪解け水により洪水が発生し、200人以上が死亡した。

イラン (2月)

マグニチュード6.4の強い地震が襲い612人が死亡した。

パキスタン (2月)

豪雨により大型ダムが決壊し82人が死亡した。

エチオピア (4月)

2日間降り続いた大雨により堤防が決壊し100人以上が死亡した。

インド (7月)

洪水が発生し、少なくとも127人が死亡した。

中国・黒龍江省 (6月)

洪水が発生し、小学校が濁流に巻き込まれ児童95人以上が死亡した。

北朝鮮 (6月)

雷と強風を伴う豪雨により鉄砲水や地滑りが発生し88人が死亡した。

中国 (9月)

台風13号により集中豪雨による洪水が生じ、129人が死亡した。

中国・湖南省 (6月)

豪雨により洪水や地すべりが発生し、少なくとも75人が死亡した。

中国 (6月)

南部では、大雨による洪水や地滑りが相次ぎ、少なくとも536人が死亡した。

中国 (6月)

雷と強風を伴った嵐が発生し80人余りが死亡した。

ベトナム (9月)

台風18号により発生した鉄砲水や土砂崩れにより、59人が死亡した。

ベトナム (10月)

豪雨により洪水が発生し、少なくとも67人が死亡した。

インドネシア (3月)

スマトラ島西沖で、マグニチュード8.7の地震が発生し、905人が死亡した。

アメリカ (8月)

ハリケーン「カトリーナ」が南海岸地域にカテゴリー4の強さを保ったまま上陸し、千人を超える人々が死亡した。

グアテマラ (10月)

ハリケーンにより大規模な土砂崩れが発生し、508人が死亡した。

ベネズエラ (2月)

洪水と地滑りにより少なくとも53人が死亡した。



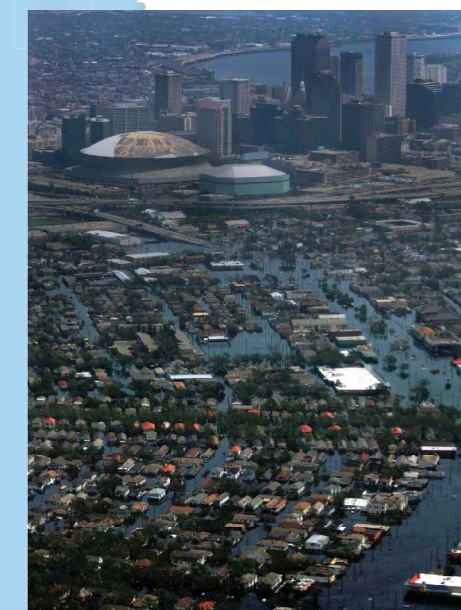
▲ 破壊されたBalakotの町に避難していた丘の上から救援に向かう人々 (パキスタン)



▲ 子供をたらいに乗せて避難させる中国警察 (中国)



▲ 老婆を運び出す中国軍隊 (中国)



▲ ハリケーンによる水没したニューオーリンズ市街地 スーパードーム (左) とホーンズツアリーナ (右) (アメリカ・ニューオーリンズ、ルイジアナ州)

※情報はアジア防災センターのホームページより (死者が50名以上の災害を抽出)

※写真提供: ロイター・サン